

令和7年度 学校自己評価書 (川南町立国光原中学校)

項目	評価指標 及び 具体的目標	方策・手立て	自己評価		結果の考察・分析および改善策等
			項目	総合	
I 町民が生涯を通じて学び、教育に参画する社会づくりの推進					
1	家庭教育支援の充実にも努める。 ・ 啓発活動の推進 ・ 全校生徒の三者面談実施	・ 家庭の学習習慣の重要性やスマートフォン・SNS使用について啓発を図る。 ・ 夏季休業中に全ての家庭と個人面談を行う。	3.2		○メディアによる身体への影響についての授業(9月・11月)や定期テスト前週にメディアコントロール・ウィークを実施。また、保健だよりや町の防災無線も活用し啓発したことで、保護者の協力を得られ、家庭で取り組んだ活動が増えている。 ○夏季休業中に全ての家庭と個人面談を行い、家庭の状況や学校での様子などの情報交換することで、家庭と連携した支援ができた。 ●アンケート結果では、生徒・保護者ともに92%以上が肯定的な評価であった。今後も家庭と協力・連携しながら取り組みを継続し、健康や学力向上につなげる必要がある。
2	学校や家庭、地域等が一体となって取り組む教育を推進する。(PTA活動) ・ 積極的な情報発信 ・ PTA活動の見直し ・ 学校運営協議会との連携 ・ 地域人材との積極的連携	・ 学校ホームページや学級通信などを活用し、情報を発信・提供する。 ・ 生徒に必要なPTA活動を実施する。 ・ 学校運営協議会と連携しながら、課題解決に取り組む。 ・ 地域人材との積極的な連携を通して、学校行事等の充実を図る。	3.4	3.3	○各通信等で日常の学校生活の様子や行事等を定期的に発信してきた。また、ホームページにも生徒の様子を随時掲載することで、アクセス数も増加している。[R7.4-のアクセス数 287,024件(R8.1.5現在)] ○PTA年間活動計画に沿って実施することができたが、 unnecessaryな活動もあり、今後は各部の活動内容をスリム化する必要がある。 ○学校運営協議会の助言や意見を参考に生徒会を中心にボランティアなどに参加するなど、地域に貢献する取り組みができた。 ○各学年の総合的な学習の時間で、地域人材を積極的に活用し、福祉や栽培に関する体験活動や職場体験学習を通して、自分の将来や職業観について考えることができた。 ●アンケート結果では、生徒・保護者ともに94%以上が肯定的な評価をしており、今後は積極的に地域人材の活用を図り、生徒の学びを広げ、学びの様子を発信していきたい。
II 社会を生き抜く基盤を培い、未来を担う人材を育む教育の推進					
1	読書活動を推進する。 ・ 貸出冊数3000名の達成 ・ 読書事務との連携 ※3000冊の根拠として、1か月1人2冊を目標とし設定している。(144名×2冊×11か月=3168冊)	・ 図書事務と連携して図書室来校者数、図書貸し出し数、本に触れる生徒、読書に親しむ生徒を増やす。 ・ 定期的にボランティアによる読み聞かせを実施し、本に興味を持たせる。 ・ キャリア教育につながる新聞記事の活用・充実を図る。	3.0		○年間8回各学年での「読み聞かせ」を実施し、本に興味をもち、親しむ習慣につながっている。 ○本に興味をもたせる活動として、あおぞら図書館を年5回開催した。(64名) ○昨年度から継続して、キャリア教育に関する新聞記事をスクラップシートにまとめ、教材として活用できるよう整理しているが、活用までには至っていない。 ●貸出冊数貸出冊数 2758(R8.2/27現在) ●読書をする生徒が増えない状況ではあるが、上記の取り組みで、生徒・保護者のアンケート結果は、昨年度より、平均で+9、8ポイント上昇しており、全てのアンケート項目の中で、上昇率が一番高い。今後は、あおぞら図書館や委員会活動、各教科での図書室利用など、創意工夫しながら、本や新聞に親しむ生徒を増やしていきたい。また、生徒の読解力の向上にもつながっていく。
2	確かな学力を育む教育を推進する。 ・ 各学年実力テスト地区平均を目指す。 ・ ICTの効果的な活用 ・ 授業力の向上 ・ 家庭学習の充実	・ 研究授業や研修を通して教員一人一人の授業力向上を図る。 ・ 授業におけるICTの効果的な活用を図る。 ・ 生徒、保護者に対して啓発活動を行い、家庭学習を充実させる。 ・ AIドリルの効果的な活用を図る。	3.1		○研究主題で「ひ・な・た」の学びについて研修を実施し、各教科ごとに課題を洗い出し、工夫・改善点を協議した。また、昨年度からの継続で、アウトプットを意識した授業改善を行い、読解力の向上や学力向上に努めた。 ○タブレット活用の研修を実施。各教科でばらつきはあるが、タブレット等のICT機器を活用した授業を実施することができた。 ○タブレットの持ち帰りを実施し、家庭でもAIドリルで学習する環境を整えた。 ○1月実施(全学年)の実力テスト結果は、1学年が地区平均+36.6、2学年は、県平均-11.9、3学年は、地区平均-7.1となった。2学年については、県平均を上回っている教科もあるが、教科によって偏りがある。3学年については、実力テストごとに地区平均の差を縮めている状況である。 ●アンケート結果では、生徒(93.6%)・保護者(79%)と意識に開きが認められ、保護者の期待がうかがえる。今後、生徒の対話力を高めるための基礎・基本の定着などに努め、又、タブレットを活用した授業がどの教科でも展開できるようにし、その取組を保護者にも周知を図る必要がある。
3	人権を尊重し豊かな心を育む教育を推進する。 ・ いじめ実質ゼロ ・ 道徳教育・人権教育の推進 ・ いじめ防止基本方針に基づく取組の推進 ・ 「いのちの教育週間」での啓発活動の実施	・ 授業を中心とした道徳教育を充実させる。 ・ 平和や命を大切にするための講話や人権週間の取組を行い、人権教育を推進する。 ・ いじめ不登校対策委員会を毎月実施し、特にいじめの早期発見、早期解決を図る。	3.3		○道徳の授業を核にし、平和学習、命を大切にすること教育、人権学習集会は、生徒の心に響く学習ができるよう工夫・改善しながら実施できた。 ○毎月の学校生活アンケートやいじめ不登校対策委員会、いじめの早期発見や不登校生に対する対策を協議し解決に努めた。また、関係諸機関、SCやSSWと連携し、不登校・不登校傾向生徒への改善を図ったが、なかなか解消までにはつながらない状況である。 ●アンケート結果は、生徒(94.4%)・保護者(85.7%)と昨年度より、平均で+4、8ポイントと上昇しており、安心・安全な学校づくりに努めている。今後は関係機関と連携し、いじめ・不登校がゼロになるよう努める必要がある。
4	特別支援教育を推進する。 ・ 個に応じた特別支援教育の充実 ・ 研修の推進	・ 生徒理解を通して、一人一人に応じた教育を充実させる。 ・ 特別支援教育の研修を行い、教職員の資質向上を図る。	3.2	3.2	○毎週水曜日に生徒理解の時間を設け、不登校生・不登校傾向生徒、特別な支援が必要な生徒等の状況を全職員で共通理解し、日々の教育活動にいかすことができた。また、夏季休業中に特別支援教育に関連した研修を行い、教職員の資質向上を図った。 ○毎週火曜日と金曜日の通級指導は、通級指導担当2名の先生が、生徒の困り感の解消に努めている。また、通級指導の内容等も学級担任や教科担任と共有しながら、通級している生徒が学校生活を充実して送れるようになっている。 ●アンケート結果は、生徒・保護者の平均が91%と昨年度より+3ポイント上昇している。今後も研修を生かした取り組みや職員間での情報共有しながら、困り感がある生徒への支援を充実させる必要がある。
5	郷土を愛し地域社会に参画する態度を育む教育を推進する。 ・ 農業大学校との連携 ・ 小学校、地域と連携した取組の推進 ・ ふるさと学習の推進	・ 農業大学校と連携して作物栽培や販売を行い、地域産産を体験するとともに地域の方との交流を図る。 ・ 生徒会が主体となり、地域美化活動等に取り組む。 ・ 各学年の総合的な学習の時間でふるさと学習を推進する。	3.2		○県立農業大学校の協力をいただき、カボチャとサツマイモの植え付け・収穫を体験した。また、軽トラ市では3年生を中心にサツマイモの販売を行い、地域の中で活動する貴重な体験となった。 ○生徒会が主体となった地域グリーン活動を実施し、地域貢献活動ができた。 ○各学年、総合的な学習の時間で、地域の人材を活用することができた。ふるさと学習については、主に1学年で実施し、ふるさと川南を深く知る機会となった。 ●アンケート結果は、生徒(95.2%)・保護者(91.6%)が肯定的な評価であった。今後もより多くの地域人材を計画的・系統的に活用していきたい。また、地域ボランティアへの参加も今以上に呼びかけていきたい。
6	キャリア教育を推進する。 ・ 地域学校協働活動推進員等との連携 ・ 地域と連携したキャリア教育の推進	・ 地域学校協働活動推進員等と連携して系統的なキャリア教育を推進する。 ・ 職場体験学習、職業講話等、地域の人材(人材)を活用したキャリア教育を推進する。	3.4		○各学年、地域学校協働活動推進員と連携しながら、地域人材等を活用したキャリア教育を実践できた。 ○職業講話や職場体験学習(23事業所)において、仕事の楽しさや大変さを学び職業観の育成に努めた。 ●アンケート結果は、生徒・保護者の平均が95.5%が肯定的な評価であった。今後は地域学校協働活動推進員や川南町商工会等と連携し、生徒に勤労観・職業観をもたせるようキャリア教育を実践する必要がある。
7	社会の変化に対応した多様な人材を育む教育を推進する。 ・ オンライン授業実施の推進 ・ ICTの効果的な活用研修 ・ ICT支援員の積極的な活用	・ オンライン授業を実施できる環境を更に整備する。 ・ ICTの効果的な活用について研修し、生徒がタブレットを中心としたICT機器の操作について指導を行う。支援員の活用にも努める。	3.2		○ICTの効果的な活用(ミラドール・AIドリル)について研修を行った。職員間で具体的な指導について情報交換を行った。本年度は、2、3学年を中心に実施した。 ○各学年調査等、ICT支援員を活用し、スルーズに実施することができた。 ●アンケート結果は、生徒(88.8%)・保護者(90.8%)が肯定的な評価であった。今後は、タブレットの持ち帰りを常時化し、家庭学習充実のための支援及び、多様な学びの提供を行う必要がある。また、保護者への周知も徹底していきたい。
III 教育を支える体制や環境の整備・充実					
1	教職員の資質向上と働き方改革の推進にも努める。 ・ 不祥事ゼロ ・ コンプライアンスチェック・研修 ・ 業務の見直し	・ 定期的なコンプライアンス項目のチェックや研修を通して個々の意識の向上を図る。 ・ 組織的な業務の見直しを行い、授業の準備や積極的な生徒指導等に時間や労力をかけるための働き方改革を推進する。	3.2	3.2	○職員研修や県教委からのコンプライアンス通信、新聞等の記事を活用し、職前や職員会議で啓発した。また、毎月、コンプライアンスチェックを実施し、その結果を全職員で共有し、学校全体と個々の振り返りを行い意識の高揚を図ることができた。 ○各職員が生徒と接する時間が確保できるよう、校時間の工夫やリフレッシュの定時退庁を行っているが、なかなか働き方改革を推進できていない状況がある。 ●アンケート結果は、生徒・保護者の平均が92%と肯定的な評価であった。今後もタイムマネジメントや業務の見直しを行いながら進める必要がある。
2	安全、安心な教育環境の整備・充実にも努める。 ・ けがや病気の未然防止 ・ 定期的な安全点検 ・ 危機管理マニュアルの確認	・ けがや病気(感染症等)を未然に防ぐための対策を行う。 ・ 施設設備の定期的な安全点検を行う。 ・ 危機管理マニュアルで、緊急時の体制・動きの共通理解を図る。	3.2		○危機管理マニュアルデジタル版による感染症対策を徹底し、感染症の未然防止に努めた。 ○毎月、安全点検を行い川南町教育委員会と連携しながら修繕を行って施設・設備の整備に努めた。しかし、老朽化のための修繕箇所は年々増えている状況である。 ●アンケート結果は、生徒・保護者の平均が93.9%と肯定的な評価であった。今後は施設の安全点検を実施し、危険箇所の迅速な修繕をしていきたい。また、感染症等を含め、緊急時の対応マニュアルは不断の見直しをしていきたい。
IV 文化やスポーツに親しむ社会づくりの推進					
1	学校体育の推進にも努める。 ・ 体力向上プランの推進 ・ 適正な部活動の推進	・ 体力向上プランに基づいた体力の向上を図る。 ・ 適正で効果的な部活動を推進する。 ・ 地域の人材を効果的に配置・活用する。 ※令和7年度部活動参加人数 57.6% (83名/144名) (男56.5% 女58.7%) 地域クラブ等(22名、15.3%)	3.2	3.2	○体力向上プランに基づいて、体育科で各学年毎に主運動につながるようなトレーニングメニューを作成し、体力向上に努めている。体力テストの結果を見ると学年によって違いはあるが、全国平均を上回っている種目は、男子が、「握力」女子が、「長座ボール投擲」「50m走」「ハンドボール投げ」となっている。 ○部活動は平日、休日とも県の方針に沿って行っている。また、部活動指導員、外部指導者が配置されており、効果的な部活動の運営につながっている。 ●アンケート結果は、生徒・保護者の平均が90.9%と肯定的な評価であった。体力については、全種目全国平均を目標に、今後も体育科・部活動と連携しながら取り組み、個々の体力向上に努めていきたい。